



# 神経科学ニュース

Neuroscience News・Japan Neuroscience Society

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9(財)日本学会事務センター内  
日本神経科学学会

TEL: 03-5814-5810 FAX: 03-5814-5825

## 第26回日本神経科学大会のご案内 - 第4報 -

第26回日本神経科学大会 プログラム委員会、実行委員会

第26回大会の準備状況をご案内いたします。

日時:2003年7月23日(水) 25日(金):本大会

:2003年7月26日(土):サテライト市民公開講座

場所:名古屋国際会議場(名古屋市熱田区熱田西町1番1号)

事務局:名古屋市立大学大学院医学研究科脳神経生理学

467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄1

tel 052 853 8136, fax 052 842 3069

e-mail hhida@med.nagoya-cu.ac.jp

HP <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/molneuro.dir/jnss26/>

1、プログラムが決定し、ホームページ上で公開しております。

### 目 次

第26回日本神経科学大会のご案内 -第4報-	1
塚原仲晃記念賞及び研究助成金の贈呈者の決定のお知らせ	5
日米科学協力事業『脳研究』分野セミナー	
「Neural Signalplexes and Ion Channel Regulation」の開催	5
日米科学技術協力事業「脳研究」分野情報交換セミナー印象記	6
シンポジウム・研究会のお知らせ	7
研究助成	16
公募	17
その他	21
編集後記	23

プログラム全体日程表

# プログラム

		7月23日(水)	7月24日(木)	7月25日(金)	26日(土)
8:30			モーニングレクチャー (ML1 ~ ML4)	モーニングレクチャー (ML5 ~ ML8)	
9:30		シンポジウム (S01 ~ S08)	一般口演 (O-050 ~ O-103)	一般口演 (O-104 ~ O-143)	ポスター (P3-A)
10:00	ポスター (P1-A)				
11:00					
12:00		ランチョン セミナー	ランチョン セミナー	ランチョン セミナー	
12:30		討論	討論	討論	
13:00					
13:15		PL-1 (Prof. Tsien)	PL-3 (Prof. Konishi)	PL-6 (Prof. Vincent)	サテライト 市民公開講座 「脳を育む」 理研 伊藤正男先生  愛知小児保健医療 総合センター 杉山登四郎先生
14:15		PL-2 (Prof. Mikoshiba)	PL-4 (Prof. McKay)	シンポジウム (S18 ~ S34)	
15:15		ポスター (P1-P)	ポスター (P2-P)		
15:30		一般口演 (O-001 ~ O-049)	シンポジウム (S09 ~ S17)	討論	
16:15					
16:45					
17:00					
17:30					
17:45	時実賞受賞 記念講演	ブレイン サイエンス 振興財団 塚原賞 記念講演	総会	シンポジウム (S18 ~ S34)	
18:00					
18:30			懇親会		
18:45					
19:00					
19:15					

特別講演(A会場)	脳研究のための新規プロスタグランジン(PG)プローブ
7月23日(水) 13時15分 - 14時15分	
PL-1 Tsien, Richard W. (Dept Mole & Cell Physiol, Stanford Univ Sch Med)	ML-3 甘利 俊一 (理化学研究所 脳科学総合研究センター)
Unexpected features of vesicle turnover in presynaptic terminals	Amount of information in population coding 神経系における集合符号化と情報量
14時15分 - 15時15分	ML-4 岡野 栄之 (慶応大学 医学部 生理学)
PL-2 Mikoshiba Katsuhiko (Institute of Medical Science, University of Tokyo, RIKEN Brain Science Institute, [Ca <sup>2+</sup> oscillation] Project, ICORP, JST)	Regenerating the central nervous system
Role of IP3 receptor/Ca <sup>2+</sup> signaling in brain development and neural plasticity	
7月24日(木) 13時15分 - 14時15分	7月25日(金)8時30分 - 9時15分
PL-3 Konishi, Masakazu ( Dept Biol, Caltech )	ML-5 田平 武 (国立長寿医療研究所)
Computations for sound localization in the owl's auditory system	Alzheimer ' s disease: mechanisms and development of therapeutic strategies
14時15分 - 15時15分	ML-6 工藤 佳久 (東京薬科大学 生命科学部 生体高次機能学)
PL-4 McKay, Ronald D. ( Lab Mol Biol, NINDS/NIH )	Glia-neuron communication and its roles in brain function
Building the CNS, from stem cells to the first synapses	ML-7 永津 俊治 (藤田保健衛生大学 総合医科学研究所)
7月25日(金) 11時00分 - 12時00分	The molecular mechanism of neuronal death in parkinson ' s disease suggests possible gene therapy パーキンソン病における神経細胞死と遺伝子治療
PL-5 Mori Shigemi (National Inst Physiol Sci)	ML-8 藤澤 肇 (名古屋大学大学院 理学研究科)
Higher nervous control mechanisms of locomotion; Multi-system level analyses.	Discovery and functions of semaphoring receptors, neurophilins and plexins, in neuron network formation
13時15分 - 14時15分	セマフォリン受容体ニューロピリンとプレキシンの発現と神経回路形成における役割
PL-6 Vincent, Angela (Inst Mol Med, John Radcliffe Hosp, Oxford)	
The role of antibody to neuronal antigens in causing neurological disorders	2、発表形式について
モーニングレクチャー	特別講演、モーニングレクチャー、シンポジウム、一般口演の発表器材はPC用コンピューターで行います。
7月24日(木)8時30分 - 9時15分	シンポジウムの発表は、原則英語でお願いいたします。ポスター発表の原稿は、すべて英語で作成して下さい。ただし、日本語のサマリーも掲示して下さい。
ML-1 小野 武年 (富山医薬大 医学部 生理学)	なお、発表形式の詳細(CD / コンピューター持込、OSなど)については、プログラム集および6月中旬に公開されるHP 上でご確認ください。
Neural mechanism of emotion in the prefrontal cortex, limbic system and nucleus accumbens	
ML-2 鈴木 正昭 (岐阜大学大学院 医学研究科)	
Novel prostaglandin probes for brain research	

## シンポジウム

No	オーガナイザー	タイトル	発表日
S1	石田直理雄(産業技術総研)、岡村 均(神戸大)	概日リズムのシステム分子神経科学	23日 午前
S2	木山博賢(大阪市大)、田賀哲也(熊本大)	神経系の構築と再構築を制御する転写制御ネットワーク	
S3	五十嵐道弘(新潟大)、竹居孝二(岡山大)	シナプス前終末におけるCa <sup>2+</sup> 依存性の分子シグナリング研究の新展開	
S4	山森哲雄(基生研)、Kathleen Rockland(理研)	Neocortical Organization: genes, neurons, ensembles	
S5	加藤総夫(慈恵医大)、金田 誠(慶応大)	細胞外ATP活性化イオンチャネル(P2X受容体)の中樞神経系における機能と局在	
S6	柳沢勝彦(長寿研)、横山信治(名古屋市大)	脳の病態生理とコレステロールホメオスタシス	
S7	山嶋哲盛(金沢大)、柳沼重弥(都神経研)	我が国における高次脳機能評価の現状	
S8	前田信明(都神経研)、大平敦彦(愛知県コロニー)	プロテオグリカンによる神経発生と病態の制御	
S9	中野今治(自治医大)、板倉 徹(和歌山医大)	新たな脳細胞移植法の確立と障害脳機能の再建	
S10	小野田法彦(金沢医大)、佐藤勝重(東京医歯大)	内因性光信号のイメージング-感覚中枢の情報処理	24日 午後
S11	赤池 忠(北大)、渋谷克栄(新潟大)	光学的機能画像解析の最前線: 分子からヒト脳機能まで	
S12	白尾智明(群馬大)、岡部繁男(東京医歯大)	樹状突起スパイン形成を制御する分子機構	
S13	柿木隆介(生理研)、川島隆太(東北大)	顔認知のメカニズム	
S14	三上章允(京大)、舟橋新太郎(京大)	意志決定の脳内機構	
S15	富永真琴(三重大)、小林茂夫(京大)	温度受容の分子機構	
S16	香山雪彦(福島医大)、本多和樹(東京医歯大)	オレキシンによる睡眠覚醒調節-分子メカニズムから行動まで-	
S17	福田敦夫(浜松医大)、鍋倉淳一(九州大)	抑制性ニューロンの発生と機能分化	
S18	久永真市(東京都立大)、富澤一仁(岡山大)	サイクリン依存性キナーゼ(cdk5)が制御する神経細胞の生から死	
S19	内山安男(大阪大)、桃井 隆(精神神経センター)	神経変性の分子機構: 小胞体からリソゾームへ	25日 午後
S20	久保義弘(東京医科歯科大)、高橋良輔(理科研)	ミトコンドリアの機能・動態と神経細胞死	
S21	藤澤 肇(名古屋大)、野田昌晴(基生研)	軸索ガイダンスと標的識別の分子機構	
S22	貝淵弘三(名古屋大)、五嶋良郎(横浜市大)	成長円錐のダイナミクス	
S23	山本亘彦(大阪大)、中嶋一範(慶応大)	大脳皮質の発生・進化と機能構築	
S24	大隅典子(東北大)、川野 仁(都神経研)	後脳の形成と細胞移動	
S25	南 雅文(京大)、池田和隆(都精神医学総研)	Aspects of Emotion: From Molecules to Behavior	
S26	渡邊正孝(都神経研)、坂上雅道(玉川大学脳研)	Reward expectancy in the prefrontal cortex and striatum (協賛: Eur. Brain and Behav. Soc)	
S27	河田光博(京都府医大)、林しん治(横浜市大)	視床下部・辺縁系に対するホルモン性シグナル分子の標的作用: 行動と神経細胞の新生・可塑・受容体	
S28	大村 裕(九州大)、佐々木和男(富山大)	内因性生理活性物質と脳高次機能	
S29	畠 義郎(鳥取大)、渡部眞三(愛知県コロニー)	Restoration of Vision Function in Mammals-From Plasticity to Prosthesis	
S30	堀江秀典(早稲田大)、中別府雄作(九州大)	ガレクチン-1の神経機能再建へ向けての研究展開	
S31	久保田 競(京大・霊長研)、松村道一(京大)	The Premotor cortex and Rehabilitation	
S32	岡田安弘(神戸大)、沢口俊之(北海道大)	脳研究の新しい視点を求めて	
S33	宇川義一(京大)、塚田秀夫(浜ホト)	連続磁気刺激の作用機序	
S34	渡辺恭良(大阪市大)、尾上浩隆(都神経研)	In vivo Molecular Imaging (生体分子イメージング)	

## 塚原仲晃記念賞及び研究助成金の贈呈者の決定のお知らせ

財団法人ブレインサイエンス振興財団(伊藤正男理事長)は、生命科学の分野で優れた独創的研究を行っている45歳以下の研究者のなかから、毎年原則として1名を選び、塚原仲晃記念賞を贈呈しているが、第17回(平成14年度)塚原仲晃記念賞は次の方に贈呈されることが決定した。賞牌並びに副賞(各100万円)が贈られる。(受賞者の業績及び経歴の概要は紙面の都合上省略させていただきます。)

河西春郎

岡崎国立共同研究機構生理学研究所教授  
シナプス・開口放出機構の2光子励起解析

また、ブレインサイエンス(脳神経に関する科学)の研究者に贈られる研究助成金(1件、80万円)は、次の8氏に贈呈されることに決定した。

佐藤容子 東京医科歯科大学大学院 講師

初期胚脳脊髄における新規脱分極波の解析

前田信明 東京都神経科学総合研究所 部門長

プロテオグリカンと神経回路形成の調節機構

齋藤康彦 群馬大学医学部 講師

前庭ニューロンの *in vivo* ホールセル記録

小原圭吾 大阪大学大学院医学系研究科 研究員

脳由来神経栄養因子の活性化と動態の解析

畠 義郎 鳥取大学医学部 教授

発達期視覚野におけるコラム構造の可塑性と遺伝子動態

松浦 徹 ベイラー医科大学 助教授

Spinocerebellar ataxia type 10(SCA10)における変異 RNA 神経メカニズム

宮田麻里子 岡崎国立共同研究機構生理学研究所 助教授

大脳皮質 - 視床投射の動的機構

山国 徹 東北大学大学院薬学研究科 助教授

新規神経機能制御因子の脳機能再生への応用

財団法人ブレインサイエンス振興財団

(事務局)東京都中央区八重洲2丁目6番20号ホンダ八重洲ビル 7階 TEL: 03-3273-2565

## 日米科学協力事業『脳研究』分野セミナー「Neural Signalplexes and Ion Channel Regulation」の開催

岡崎国立共同研究機構

総合バイオサイエンスセンター

森 泰生

生理学研究所・統合バイオサイエンスセンターの主催により、国際シンポジウム「Neural Signalplexes and Ion Channel Regulation」が、3月16日(日) - 18日(火)にわたり岡崎コンファレンスセンターにおいて開催されました。本シンポジウムは、生理学研究所と米国 the National Institute of Neurological Disorders and Stroke at the National Institutes of Health との間で締結された、日米科学協力事業『脳研究』分野によりバックアップを受けています。また、生理学研究所小幡教授、Dr. James Surmeier (Northwestern Univ. Medical School) 及び Dr. Stephen Ikeda (NIH/NIAA)の助言に基づいて計画されました。

神経細胞における広範な生体シグナル伝達に、イオンチャンネルが重要であることは言うまでもありません。その役割は、非常に速い電気的情報の処理から、神経発生や遺伝子発現といったゆっくりとした神経機能にわたっています。分子生物学や電気生理学的解析により、イオンチャンネルの構造活性相関に関する莫大な量の情報が得られてきました。最近さらに、「どのようにして神経情報が活動電位に書き込まれていくのか」、「シナプスを介した正確な伝達や統合とはいかなるものか」、「最終的にはどのようにして書き込まれた情報が、的確に効果器(effector)に伝えられるのか」といった課題を調べることによって、神経回路の正常機能におけるイオンチャンネルの寄与に関する研究が、大きく進歩しました。こういったことを背景にして、「イオンチャンネルがどのようにして生理的に機能するか」の理解を目指した、本シンポジウムは

最近の研究を中心にとりあげ、KEY WORDを「シグナル複合体」としました。イオンチャネル機能の精密制御や神経機能の素過程が、細胞内ミクロ構造における「シグナル複合体」中で起こると思われるからです。

シンポジウムでトピックスは以下のようなものであります。

神経機能素過程の発現とイオンチャネルの  
神経伝達物質による調節  
シグナル複合体におけるリン酸化酵素や  
Gタンパク質によるイオンチャネル機能修飾  
シグナル複合体やイオンチャネルの細胞内  
局在化機構  
イオンチャネルによる高次神経機構制御

が、シンポジウムが終わってみると、実は「カルシウム依存性の細胞応答」というのが最重要KEYWORDという気がします。脳神経系のみならず、細胞内シグナルの増幅・協調機構がカルシウムにより司られているというのが、私的な印象でした。

イラク攻撃が始まろうとした最中に開催されたため、外国からの参加者のキャンセルが心配されましたが、ほとんどの方に来ていただき、なんとか滞りなく進行することができました。その方たちには、「参加してよかった」の言葉をいただきました。また、イオンチャネルとシグナル伝達をそもそも最初に合体させた大阪大学・倉智嘉久教授、また、それを脳神経のシナプス伝達で大きく発展させた東京大学・高橋智幸教授のPlenary lecturerお2人を始めとした日本側の発表はどれもすばらしく、どれも聞き逃せなかったと、ほとんどの外国からの参加者から称讃頂きました(当然?)。最後に、この場をお借りしまして、発表者のみならず参加者の方々、裏方をしていただいた生理学研究所・統合バイオサイエンスセンターの方々に、深くお礼申し上げたいと思います。

## 日米科学技術協力事業「脳研究」 分野情報交換セミナー印象記

生理学研究所・液性情報部門

宮田麻理子

2003年3月16 - 18日にかけて、岡崎国立共同研究機構のカンファレンスセンターにおいて日米科学技術協力事業 情報交換セミナーが開催された。今年「Neuronal Signalplexes and Ion Channel Regulation」をテーマに海外(米国7名、韓国より1名)から8名の一流の研究者をお呼びし日本人科学者含めて総勢28人の講演者を中心に活発な議論がなされた。今回は生理研の液性情報部門(井本研)と統合バイオセンターの森 泰生先生の研究室が世話人であり、私も裏方と講演者を務めたため、いつもの研究会のように終日講演を聞き入っている余裕はなかった。準備のためセミナー前日の講演者の方々の到着日から慌ただしい日を過ごした。岡崎での国際シンポジウムの開催にあたってもっとも重要なことは、「外国からの講演者の方々を無事に岡崎のホテルに届け、最後無事に帰国の途につかせること」だそうである。確かに、岡崎は東京と違い愛知県の一地方都市で英語の標識もわずかしがなく、海外から単独で岡崎まで来るのは至難の業であるので、名古屋空港から岡崎までの送迎は必須になる。折しも、イラク戦争がいつ始まってもおかしくない状態であり、最悪の場合、海外の講演者の方々が来日できないのではないかという危惧もあった。幸い、到着日当日は飛行機が1便3時間遅れたというアクシデント以外は、皆さんを無事に岡崎にお迎えすることができた。この戦況の時にキャンセルをせず来日して下さった米国からの研究者の方々には改めて感謝したい。

さて、肝心のセミナーの内容であるが、今回のセミナーは全体を通して、次の3点のトピックスが浮き彫りになったように思う。

1つは、種々のチャンネルの詳細な分子構造解析がさらに進み、新たな拮抗薬の研究がすすんでい

ること。

2つ目は、チャンネル機能を修飾する細胞内分子の作用機序が著しく明らかになりつつあること。

3つ目は、シナプス伝達及び可塑性における種々のイオンチャンネルおよび細胞内分子の役割が明らかになるとともに、病態解明や臨床応用にも発展性があること。(詳しくは <http://www.nips.ac.jp/huinfo/JUS/index.htm> を参照してください。)

しかしながら、これらの内容はさらなる複雑な neuronal signalplexes を想起させ、この複雑に絡まった神経細胞内シグナルの謎を紐解く必要性を感じると同時に、個々がどのような生理現象に統合されるかという研究の取り組みも益々必要であることを感じずにはいられない。「アニエールの水浴」などでよく知られるジョルジュ・スーラの点描画が、違った色の一点一点がその配列に規則性をもって一つの絵になるように、神経細胞が全体の絵で、個々のイオンチャンネルや分子が点であれば、その規則性を見だし美しく描くのが我々研究者なのであろう。私の専門分野では Nelson Spruston 先生が、海馬 CA1 錐体細胞の遠位側樹状突起では A type K<sup>+</sup> チャンネルが LTP 誘発に寄与し、近位側の樹状突起での LTP 誘発機構との

差異を詳細に解析し論じていたこと、またそれをシステムまで繋げて考察されていたことが印象に残った。多くの若手研究者や大学院生も参加し盛んに議論された有意義なセミナーであった。

自分の英語講演については、多々の反省点を確認でき良い機会を与えられたと思う。講演中も数点の事を言い逃してしまった。もう少し、質問に対し自分の言いたいことを的確に英語で表現できたら。懇親会でももっと witに富んだフランクな会話が海外研究者とできたら。英語に纏わる私の課題は山積みである。ただ、下手な英語でも、海外研究者と face to face で親睦を持つ重要性を実感した。特に、今回来日された、韓国の Hee-shup Shin 先生とは、共同研究で何度か E-mail でやりとりし共著論文を出しているものの、お会いするのは初めてであった。実際お会いして、韓国の研究状況、文化などフランクな会話を通して、mail では分からない相手の人柄、研究姿勢などを垣間見ることができる。お互いを理解しあうことは、共同研究をする上でも非常に重要であり、単なる研究情報交換の場だけでない付加価値を生むのが、このような国際セミナーを開催する意義であることを感じた3日間であった。

## INFORMATION

### シンポジウム・研究会



#### 平成15年生理学研究所研究会 「神経可塑性の分子的基盤」

日時:平成15年5月29日(木)午後1時~5月30日(金)正午

場所:生理学研究所(愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38)カンファレンスセンター

代表世話人:尾藤晴彦(東大・医)、生理学研究所内  
対応者:森泰生(生理研)

5月29日(木) 13:00~18:30

第一部:シナプス後肥厚部受容体の動態制御機構

座長:真鍋俊也(東大医科研)

演者:

亀山仁彦(産総研)「AMPA 受容体のリン酸化と機能制御」

瀬藤光利(さきがけ研究 21)「AMPA receptor interacting protein GRIP steers kinesin to dendrites」

土井知子(京大・理)「PSD-95 のクラスタリング機構の解析」

Coffee Break (14:30-15:00)

座長:狩野方伸(金沢大医)

演者:

富田進(UCSF)「TARPs (stargazin family) /AMPA receptor 複合体の機能解析」

板倉誠(北里大医)「AMPA受容体含有小胞の精製と共存蛋白質の解析」

渡部文子(東大医科研)「PSD分子構成の神経可塑性および記憶・学習行動における役割」

Coffee Break (16:30-17:00)

座長:高橋正身(北里大医)

演者:

初山明子(生理研)「Estimating errors associated with the peak-scaled non-stationary fluctuation analysis (PS-NSFA) of climbing fibre-Purkinje cell EPSCs by Monte Carlo simulation」

武井延之(新潟大脳研)「BDNFによる樹状突起での翻訳調節」

飯田順子(東京医歯大)「神経シナプス裏打ち蛋白質 S - S C A M の解析」

Break (18:30-19:00)

懇親会(19:00~21:00)

於 岡崎第一ホテル(名鉄東岡崎駅より徒歩5分、明代橋を渡り菅生川沿い)

1Fレストラン「トリノ」住所:岡崎市康生通南2-58 TEL:0564-26-3111 FAX:0564-26-3112

5月30日(金)9:00~12:00

第二部:神経回路形成・可塑性の分子基盤

座長:井ノ口馨(三菱化学生命研)

演者:

大西浩史(群馬大)「脳における新しい細胞間シグナリングシステム CD47-SHPS-1系の機能」

大塚稔久(カン研究所)「Molecular anatomy of the presynaptic active zone」

徳光浩(香川医大)「CaM-kinase カスケードを介した情報伝達メカニズムと遺伝子発現制御」

Coffee Break (10:30-11:00)

座長:森泰生(生理研)

演者:

見学美根子(京大・理)「小脳顆粒細胞の二相性細胞移動のダイナミクス」

上村匡(京大・ウィルス研)「樹状突起のパターン形成:その多様性を生み出す基盤」



## 千里ライフサイエンスセミナー 「感覚受容の分子生物学」

日時:平成15年6月6日(金),10:00~17:00

場所:千里ライフサイエンスセンタービル 5階ライフホール

主催:財団法人千里ライフサイエンス振興財団  
協賛:株式会社千里ライフサイエンスセンター

着眼点:近年、視覚、聴覚、味覚、嗅覚、痛覚など感覚受容の分野では、分子生物学的手法の導入により新しい発見があいついでいる。今回取り上げる感覚受容の研究は、ポストゲノム時代を迎えた21世紀において、多様な個人の感性の理解や、高齢化社会での感覚障害の克服に道を拓くものとして大いに期待されている。本セミナーでは、ヒトの五感の分子レベルでの理解がどこ迄進んでいるのか、この分野の第一線で活躍されている先生方の話から、最近の研究の新しい息吹を感じとっていただきたい。

コーディネーター:

大阪大学大学院 医学系研究科 教授 福田 淳  
東京大学大学院 理学系研究科 教授 坂野 仁  
プログラム:

1.感覚受容の分子メカニズム

東京大学大学院 理学系研究科 教授 坂野 仁

2.網膜における新しい光受容機構の発見

岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所 博士研究員 高雄 元晴

3.味覚と嗅覚受容体研究の最前線

Duke University Medical Center, Assistant Professor 松波 宏明

4.痛み受容・温度受容の分子機構

三重大学医学部 生理学第一講座 教授 富永真琴

5.耳の中にアンブが存在する

東北大学大学院工学研究科 バイオロボティクス専攻 教授 和田 仁

6.脳の匂い分子受容体地図

東京大学大学院医学系研究科 細胞分子生理学分野 教授 森 憲作

参加費(講演要旨集合含む):会員(大学・官公庁職員、財団の賛助会員)3,000円;非会員5,000円;学生1,000円

定員:300名

申込方法:氏名、〒所在地、勤務先、所属、電話及びFAX番号を明記の上、郵便、FAXまたは電子メールで下記宛にお申込下さい。受付の通知を返送いたしますので、通知書に記載した振込先口座に参加費をお振込み下さい。入金を確認後、通常2週間以内に領収書兼参加証を送付いたします。申込先:(財)千里ライフサイエンス振興財団セミナー(T1)係

〒560-0082大阪府豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル8階

TEL: 06-6873-2001 FAX :06-6873-2002

E-mail:sng-lsf@senri-lc.co.jp



## 千里ライフサイエンス 技術講習会 第32回「蛍光顕微鏡による生 細胞 FRET測定」

日時:平成15年6月26日(木)10:30-17:00

場所:千里ライフサイエンスセンタービル6階(展示場)

ねらい:細胞内分子間の結合を、生きた細胞で見たいと考えている研究者に対して、FRET法(Fluorescence Resonance Energy Transfer)を紹介する。この方法は、測定する2つの分子を異なる蛍光色素で標識し、2つの蛍光色素間に起こるエネルギー供与を測定する方法である。ここでは、FRET法の原理、蛍光色素の選択、共焦点蛍光顕微鏡を用いたFRETの測定法を紹介する。コーディネーター:平岡 泰 通信総合研究所 生物情報グループリーダー

プログラム:

技術解説

1.FRETの原理

2.FRETに適する蛍光色素

3.FRETのための蛍光顕微鏡

実演

1.Laser scanning共焦点顕微鏡を用いたFRETの測定

2.Nipkow-disk 共焦点顕微鏡を用いたFRETの測定

3.画像データの解析

講師

平岡 泰(通信総合研究所 生物情報グループリーダー)

原 徳子(通信総合研究所 生物情報グループ 主任研究員)

永井 健治(理化学研究所・脳センター、科学技術振興事業団・さきがけ)

参加費:5,000円 定員:30名

参加者資格:蛍光顕微鏡の基礎知識および実機経験を持っていること。

申込方法:氏名、〒所在地、勤務先、所属、電話、FAX番号および蛍光顕微鏡の使用経験(簡単な内容、機種など)を明記の上、郵便、FAXまたはE-mailで下記宛にお申込み下さい。事務局より受付の通知を返送いたしますので、そこに記載した振込先口座に参加費をお振込み下さい。入金を確認後、通常1週間以内に領収書兼参加証をお届けいたします。

申込締切:平成15年6月10日(財団必着)但し、定員を超過した場合は参加者の調整を行う場合があります。

申込先:(財)千里ライフサイエンス振興財団技術講習会G32係

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル8階

TEL:06-6873-2001 FAX:06-6873-2002

E-mail:tnb-lsf@senri-lc.co.jp

(注:lsfは「エルエスエフ」、lcは「エルシー」)

URL:<http://www.senri-lc.co.jp>

主催:財団法人千里ライフサイエンス振興財団

協賛:カール ツァイス株式会社、横河電機株式会社、株式会社日本ローパー、株式会社千里ライフサイエンスセンター



### 第18回日本大脳基底核研究会

会期:2003年6月28日(土),29日(日)

会場:富士教育研究所(静岡県裾野市)

オーガナイザー:宇川義一(東京大・神経内科)

プログラム:

6月28日(土)午後

シンポジウム1(1:30-3:00)ゾニサミド:新しい抗パーキンソン病薬?

村田美穂(東京大)、堀内恵美子(東京大)、野元政弘(愛媛大)、南部 篤(生理研)、浅沼幹人(岡山大)

シンポジウム2(3:00-4:30)基礎研究における最近のトピックス

宮地重弘(東京都神経研)、南本敬史(京都府医大)、深井朋樹(玉川大)

シンポジウム3(5:00 6:30)基底核疾患の磁気刺激治療の可能性:動物実験と臨床応用

大西 隆(国立精神神経センター)、林 拓也(国立循環器病センター)、塚田秀夫(浜松ホトニクス中央研究所)、岡部慎吾(東京大)

座談会(9:00-10:00)大脳基底核は何をしているか?

柳澤信夫(関東労災病院)、水野美邦(順天堂大)、金澤一郎(国立精神神経センター)

6月29日(日)午前

シンポジウム4(9:00-10:30)基底核疾患と遺伝子辻 省次(東京大)

一般演題およびビデオセッション(11:00 12:30)演題募集中

事務局:〒183-8526 東京都府中市武蔵台2-6

(財)東京都医学研究機構 東京都神経科学総合研究所 統合生理研究部門

高田昌彦

TEL:(042)325-3881;FAX:(042)321-8678;E-mail:takada@tmin.ac.jp



### 生理学研究所

### 生理科学実験技術

### トレーニングコースのお知らせ

生理学研究所では、「分子・細胞レベルから脳の働きに至るまで人体の機能を総合的に解明すること」を目標に研究を進めています。例年、夏期に生理学分野に関心を持つ大学・大学院生、若手研究者を対象とした実習形式のトレーニングコースを開催しています。実習では最新の生理科学の技術を学んで頂けます。詳細、参加申込方法は下記のホームページをご覧ください。熱意、意欲のある方のご応募をお待ちしております。

日時:2003年7月28日(月)～ 8月1日(金)

場所:岡崎国立共同研究機構 生理学研究所(愛知県岡崎市)

講演

『イオンチャネル・神経回路から個体に向けて』井本敬二(生理学研究所)

実習テーマ

電子位相顕微鏡の原理と実践

超高圧電子顕微鏡による生物試料の立体観察

免疫電子顕微鏡法

生体標本の蛍光観察と細胞内カルシウム濃度測定

ジーンターゲットング

胎仔脳内への遺伝子導入 - レトロウイルスとエレクトロポレーション -

遺伝子導入・欠損を用いた細胞応答解析

パッチクランプと電気生理学実験解析法

スライスパッチクランプ(1. 基礎コース 2. 応用コース)

慢性動物実験法入門

電気生理学及び心理物理学的手法による視知覚メカニズムの解析

脳機能画像解析入門

脳磁図計測・解析の基礎

OPアンプによる増幅器とパスチェンバーの作製

簡易型電気泳動装置の作製

受講料:9,800円(予定)

申込方法:ホームページ上にてオンライン受付  
(<http://www.nips.ac.jp/training/>)

申込期日:2003年4月23日(水)～6月 4日(水)

共催:日本生理学会, 日本神経科学学会

連絡先:e-mail: [training@nips.ac.jp](mailto:training@nips.ac.jp)

募集人員:約150名



## 神経情報科学 サマースクール参加者募集 のお知らせ

日本神経回路学会では 脳の情報処理メカニズムの理解をめざす大学院生・若手研究者を対象に, 神経情報科学サマースクール(NISS2003)を開催します.このスクールは,生物・実験系および数理・工学系の双方の学生と研究者が 脳科学の最新の話題に触れ,いま何が問題なのか,どんなアプローチが必要なのかを,ともに考える場を提供することをめざすものです。

実験家にとってはモデル化や解析法の数理的基盤を理解する機会を 理論家にとっては最新の実験事実や生データに触れる機会を提供するため 単なる講義に留まらず,十分な時間をとった討論とデータ解析やモデル化の実習を重視します。

今回は 新国会図書館の開館などで話題のけいはんな学研都市の国際高等研に場所を移し,「脳の局所回路の計算機構」のテーマで,下記の要領で実施致します.実験系・理論系双方からの意欲的な参加者を募集致します。

名称:神経情報科学サマースクール

Neuroinformatics Summer School (NISS2003)

<http://www.jnns.org/niss/2003/>

主催:日本神経回路学会

共催:(財)国際高等研究所

玉川大学COE プログラム

電子情報通信学会ニューロコンピューティング研究会

協賛:日本神経科学学会

テーマ:「脳の局所回路の計算機構」

内容:脳における情報の表現と変換,学習と記憶は,大脳皮質,海馬,大脳基底核,小脳など,それぞれに特徴的なニューロンの特性や回路の構造のもとでいかに実現されているのだろうか?多電極記録,光学計測や,ニューロンや回路モデルによる解析など,それぞれの領野で先進的な研究者を講師に招き 脳の局所回路の情報処理機構がどこまで解明され,これから何が必要かを議論する。

日程:2003年8月2日(土)～8月6日(水)4泊5日

会場:国際高等研究所(京都府木津町)

<http://www.iiias.or.jp/>

コース内容(予定):

- ・実験系,理論系の講師による講義と質疑応答
- 銅谷賢治(ATR):脳の局所回路の計算機構
- 金子武嗣(京大):大脳皮質のニューロン 回路と機能
- 大澤五住(阪大):視覚野のニューロンの時空間特徴 選択性
- Miguel A. L. Nicolelis (Duke Univ.):皮質電極によるロボットの制御
- 関野祐子(群馬大):海馬の回路と記憶の制御
- 平野丈夫(京大):小脳のニューロン,回路と機能
- 青崎敏夫(老人研):大脳基底核のニューロン 回路と機能
- Dietmar Plenz (NIMH):皮質一線条体回路のダイナミクス
- 加藤英之(New York Univ.):ニューロンモデルとSynfire chain

・講義に関連した論文の予習

・MATLAB, NEURON等を用いたデータ解析とモデル化実習

・実習結果の発表会

・講義録の作成(講義録はホームページ・日本神経回路学会誌に掲載予定).

募集定員: 25名

参加費 30,000円(期間中の食費, 宿泊費を含む)  
なお, 自費参加の学生若干名に, 参加費用の補助を行う予定.

申込方法:以下の内容を下記申し込み先アドレスまでe-mailにて送付のこと.

1) 氏名, 2) 生年月日, 3) 所属(学生の場合指導教官名), 4) 連絡先住所, 5) 電話, 6) FAX, 7) E-mail, 8) 略歴, 9) 現在の研究テーマ, 10) 参加費用補助の必要の有無, 11) スクールに応募する理由、期待すること, 実習テーマの提案など(1000字以内).

申込締切: 2003年5月30日(金)必着

申し込み/ 問合せ先: jnns-niss@umin.ac.jp

・応募者多数の場合には, 11)の作文と, 参加者の出身分野のバランスを考慮して選考を行なう. 選考結果は6月中旬に連絡予定.

・コース内容や講師などは現在調整中のため, 最新の情報はホームページ <http://www.jnns.org/niss/2003/> をご参照ください.

\* NISS2003 実行委員会

校長 銅谷賢治(ATR)

副校長 石井信(奈良先端大)

ディレクター 篠本滋(京大) 深井朋樹(玉川大)

ファカルティ 青柳富誌生(京大) 北澤茂(順天堂大)

鮫島和行(ATR) 柴田智広(奈良先端大)

チューター 伊藤真(CREST/群馬大) 浦久保秀俊(東大)

増田直紀(東大)

アドバイザー 甘利俊一(理化学研究所) 川人光男(ATR)

塚田稔(玉川大) 安井湘三(九州工大)



## 2003年 第33回新潟神経学 夏期セミナー

期日:7月17日(木)~7月19日(土)

場所:新潟大学医学部第3講義室(新潟市旭町通1番町)

主催:新潟大学脳研究所 新潟脳神経研究会

- プログラム -

7/17 (木)

-12:00 部門見学

13:00-19:00精神神経疾患の仮説と最新モデル研究

司会:那波宏之・染矢俊幸

13:00-13:35ストレス脆弱性/森信 繁(広島大・医)

13:35-14:10産科合併症/鈴木勝昭(浜松医大)

14:20-14:55海馬障害モデル/橋本亮太(国立精神・神経センター)

14:55-15:30 モノアミン神経伝達 / 曾良一郎(東北大・医)

15:40-16:15神経栄養因子/那波宏之(新潟大・脳研)

16:15-16:50脳内サイトカイン/岩倉洋一郎(東大・医科研)

17:00-17:35 グルタミン酸受容体 / 崎村建司(新潟大・脳研)

17:35-18:10 D I S C 1 遺伝子 / 澤 明(ジョンスホプキンス大)

18:20-19:00総合討論

7/18(金)

-12:00 部門見学

13:00-14:30遺伝子発現による記憶形成制御/喜田 聡(東京農大・バイオ)

14:30-16:00性行動の遺伝子メカニズム/山元大輔(早大・理工)

16:00-17:30傍腫瘍性神経症候群の病態機序をめぐって / 田中恵子(新潟大・脳研)

17:30-19:00虚血性神経細胞死の分子機構/山嶋哲盛(金沢大・医)

19:00- ピアパーティー

7/19(土)

10:00-16:00 アルツハイマー病研究の進歩 司会:  
西澤正豊

10:00-11:15 アミロイド沈着と セクレターゼ/  
池内 健(新潟大・脳研)

11:15-12:30 タウの異常と神経変性/長谷川成人(精  
神研)

13:30-14:45 診断の進歩:バイオマーカーと画像/東  
海林幹夫(岡山大・医)

14:45-16:00 ワクチン療法 その他 /田平 武(国立  
長寿研)

#### 部門見学プログラム

7/17(木)

分子神経生物学 (10:00-12:00)DNA アレイとDNA  
チップ(イントロ)(10名)

細胞神経生物学 (10:00-12:00)神経伝達物質放出機  
構(15名)

システム脳生理学 (10:00-12:00)大脳聴覚野機能の  
行動解析(8名)

病理学 (9:30-12:00)Brain Cutting:自分の目で病変  
を見る!(10名)

分子神経病理学 (10:00-12:00)PCR法による DNA  
合成実習(10名)

脳神経外科学 (9:30-12:00)手術見学(5名)

神経内科学 (9:00-12:00)病棟回診(白衣持参)(10名)

統合脳機能研 (10:00-12:00)f MRI実践(脳の機能  
を見る)(10名)

遺伝子実験 (10:00-12:00)脳疾患関連遺伝子解析(MS  
法)(6名)

/18(金)

分子神経生物学 (10:00-12:00)DNA アレイとDNA  
チップ(実験見学)(10名)

細胞神経生物学 (9:30-12:00)発生工学の脳研究へ  
の応用(6名)

システム脳生理学 (10:00-12:00)脳活動のイメージ  
ング:実験公開(8名)

病理学 (9:30-12:00)組織検討会、教室紹介(10名)

分子神経病理学 (10:00-12:00)PCR法による DNA  
合成実習(続)(10名)

脳外科・神経内科(10:00-12:00)神経放射線カン  
ファレンス(15名)

統合脳機能研 (10:00-12:00)脳波と事象関連電位の  
実践(5名)

遺伝子実験 (10:00-12:00)脳疾患関連遺伝子解析  
(SNP法)(6名)

受講申込方法:

受講料(一般¥10,000 院生¥5,000 学生¥2,000)を  
現金書留でお送り下さい。その際、

・1日のみの受講希望者は日を指定し、上記の  
半額をそえてお申し込み下さい。

・部門見学の希望者は希望部門名と見学日をお  
知らせ下さい(先着順)。

申込先 〒951-8585 新潟市旭町通1-757 新潟大  
学脳研究所 神経学夏期セミナー事務局

(TEL:025-227-0606, FAX:025-227-0814, E-mail:  
rsato@bri.niigata-u.ac.jp)

参加資格は問いませんが、学部卒後の若い研  
究者、医師、学生等を歓迎します。

本セミナーは、日本脳神経外科学会生涯教育  
クレジット、及び日本神経学会認定医  
更新 取得単位の対象となります。



## 第30回 岡山脳研究セミナー

テーマ:「神経機能のイメージングと制御 -基礎  
研究と臨床応用-」

日時:2003年7月31日(木), 8月1日(金)

場所:岡山大学附属図書館鹿田分館3階講堂

(岡山市鹿田町2-5-1岡山大学鹿田キャンパス内)

7月31日(木) 講演 9:30~16:00

午前(9:30~11:50)

「タンパク質セラピー法による神経細胞死の制御  
とイメージング」

岡山大院・医歯・細胞生理 松井 秀樹

「細胞内シグナル伝達の時空間制御」

理研・脳科学総合研究センター 宮脇 敦史  
 「膜電位感受性色素を用いた伝達物質放出の観察」  
 東京薬科大・生命科学 宮川 博義  
 午後(13:30～16:00)  
 「中枢神経細胞内シグナルの可視化解析」  
 東京大院・医・細胞分子薬理 飯野 正光  
 「脳腫瘍におけるPETの臨床応用」  
 京都府立医大・脳神経外科 峯浦 一喜  
 「脳機能マッピングを用いた神経膠腫摘出術」  
 東北大院・医・神経外科学 隈部 俊宏

8月1日(金) ワークショップ 9:00～15:00  
 実験手技解説と実習または見学(1コース5～10人程度)岡山大院・医歯・脳神経制御学講座  
 コース1.「脳内細胞移植」神経病態外科学 新郷 哲郎  
 コース2.「MEGの計測法」発達神経病態学 吉永 治実  
 コース3.「DNA抽出と遺伝子診断」神経病態内科学 永野 功  
 コース4.「高速共焦点顕微鏡を用いた live imaging」生化学 山田浩司  
 コース5.「FM dye によるシナプス機能のイメージング」細胞生理 陸 雲飛  
 コース6.「ウエスタンブロッティング法」精神神経病態学 浜村貴史  
 コース7.「リアルタイムPCRによるmRNAの定量」神経機能構造学 佐野訓明

当日参加可能(ただし,ワークショップ参加希望者は事前登録をお願いします)  
 参加費:2千円(ただし,岡山大学の教職員,大学院生,学部学生は無料)  
 事務局:〒700-8558 岡山市鹿田町2-5-1  
 岡山大学大学院医歯学総合研究科 細胞生理  
 Tel: 086-235-7105, Fax: 086-235-7111  
 E-mail: tomikt@md.okayama-u.ac.jp



## 国際シンポジウム Dynamics of Neural Development

開催日:平成15年8月10日(日)～11日(月)  
 場所:千里ライフサイエンスセンター  
 大阪府豊中市新千里東町 1-4-2 (<http://www1.senri-lc.co.jp/access.html>)  
 オーガナイザー:村上富士夫(大阪大学大学院生命機能研究科)  
 共催:大阪大学大学院生命機能研究科21世紀COE  
 科学技術振興事業団

参加登録:定員 130名  
 参加費:企業 20,000円 大学関係者 12,000円  
 学生 5,000円(懇親会費を含みます)  
 ポスター発表:一般参加(20件)を募集しております。

参加及びポスター発表申し込み方法につきましては、下記ホームページをご覧ください。  
<http://www.fbs.osaka-u.ac.jp/jp/timed/DNDsymposium/Symposium.html>

連絡先:  
 〒560-8531 大阪府豊中市待兼山町1-3  
 大阪大学大学院生命機能研究科  
 村上研究室 片山京子  
 Tel: 06-6850-6500 Fax: 06-6857-6340  
 E-mail: katayama@fbs.osaka-u.ac.jp

### プログラム

8月10日(日)  
 Opening remarks  
 1. Axon growth and synapse formation  
 Hiroyuki Kamiguchi (BSI, Riken)  
 Migration of nerve growth cones requires detergent-resistant membranes in a spatially defined and substrate-dependent manner  
 Shigeo Okabe (Tokyo Medical and Dental University)  
 Dynamics of postsynaptic molecules during development of neuronal network

Lunch and Poster

2. Wiring

Nobuhiko Yamamoto(Osaka University)

Molecular basis for the formation of thalamocortical projections

Tatsumi Hirata(National Institute of Genetics)

Axonal elongation in the central nervous system

Edward S. Ruthazer (Cold Spring Harbor Laboratory)

Control of axon branch dynamics by correlated neural activity

Coffee break

Takeshi Yagi (Osaka University)

Diversity of CNR/protocadherin genes in the brain.

Hajime Fujisawa(Nagoya University)

Roles of semaphorins and their receptors, neuropilins and plexins, in axon guidance and neuronal cell migration.

Masatoshi Takeichi (CDB, Riken)

Cadherins/catenins as regulators of synaptogenesis and neuronal patterning

8月11日(月)

3. Migration

Mineko Kengaku (Kyoto University)

DNER signaling regulates branching formation of dendrites and glial fibers.

Takaki Miyata (BSI, Riken)

What the morphology of dividing CNS progenitor cells tells us: a lesson from cerebral and retinal slice culture

Kazunori Nakajima (Keio University)

Dynamics of cerebral cortical development

Coffee break

Andre Goffinet (University of Louvain Medical School)

Genetic control of neuronal migration

Fujio Murakami (Osaka University)

Dynamic and zone-specific migratory behavior of neocortical GABAergic neurons

Lunch and Poster

4. Fate determination, Transcriptional regulation

Hitoshi Okamoto (BSI, Riken)

Inductive signaling cascades for defining regional specificity and left-right asymmetry in zebrafish brain.

Andrew Lumsden (King ' s College London)

(未定)

Coffee break

Harukazu Nakamura (Tohoku University)

Organizing signal that defines the cerebellar and tectal differentiation

John Rubenstein (University of California at San Francisco)

Mechanisms underlying arealization and differentiation in the neocortex

Susan K. McConnell (Stanford University)

Genetic analysis of BMP and FGF signaling in telencephalic patterning



千里ライフサイエンス  
シンポジウム

「免疫制御と免疫疾患研究の  
最先端」

日時:平成15年9月2日(火)10:00 ~ 17:00

場所:千里ライフサイエンスセンタービル5階ライ  
フホール

主催:財団法人千里ライフサイエンス振興財団

協賛:株式会社千里ライフサイエンスセンター

着眼点:

免疫システムの作動と制御に関し、自然免疫系と  
獲得免疫系との調和のとれた相互作用、両免疫系  
の活性化における樹状細胞の働き、免疫応答を抑

制する制御性T細胞等が注目を集めている。免疫制御と免疫疾患に関する研究の現状を踏まえて、免疫学の最もホットな領域で国際的に先端研究を展開している演者に最新の話題を提供して頂く。

コーディネーター:

東京大学医科学研究所 教授 高津 聖志

大阪大学大学院生命機能研究科・医学系研究科  
教授 平野 俊夫

プログラム

1.自然免疫からみた免疫制御

大阪大学微生物病研究所 教授 審良 静男

2.樹状細胞による免疫制御

慶應義塾大学医学部 教授 小安 重夫

3.制御性T細胞による免疫制御

京都大学再生医科学研究所 教授 坂口 志文

4.TNF 受容体結合因子(TRAF)ファミリーによるシグナル伝達と免疫制御

東京大学医科学研究所 教授 井上 純一郎

5.インターロイキン6シグナル異常と自己免疫疾患、特に関節リウマチについて

大阪大学大学院生命機能研究科・医学系研究科  
教授 平野 俊夫

6.WT1ペプチドを用いた癌の免疫療法

大阪大学大学院医学系研究科 教授 杉山 治夫

参加費(講演要旨集含む):

3,000円(会員[大学・官公庁職員、当財団の賛助会員]); 5,000円(非会員); 1,000円(学生)

定員:300名

申込要領:氏名、〒、所在地、勤務先、所属、電話およびFAX番号を明記の上、郵便、FAXまたはE-mailで下記宛お申込み下さい。事務局より受付の通知を返送いたしますので、そこに記載した振込先口座に参加費をお振込み下さい。

入金を確認後、通常2週間以内に領収書兼参加証をお届けいたします。

申込先:(財)千里ライフサイエンス振興財団シンポジウム(S13)係

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル8F

TEL:06-6873-2001 FAX:06-6873-2002

E-mail:fjs-lsf@senri-lc.co.jp

(注:lsfは「エルエスエフ」、lcは「エルシー」)

ホームページ:http://www.senri-lc.co.jp

## 研究助成



### 第20回井上學術賞

第20回井上學術賞の受賞候補者として本学会の推薦を希望される会員は平成15年8月20日までに学会事務室(送付先〒176-0005 練馬旭丘郵便局留め 日本神経科学学会 山根 慶子)に所定の用紙に必要な事項を記入してお送りください。

(財)井上科学振興財団(西川哲治理事長)は、第20回(平成15年度)井上學術賞の受賞候補者を次のとおり募集している。

1.概要:自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた50歳未満の研究者に対し、學術賞(賞状及び金メダル、副賞200万円)を贈呈する。

2.受賞件数:5件以内

3.募集方法:指定の関係30学会、及び財団の役員・評議員等からの推薦

4.推薦締切日:平成15年9月20日(土) 学会締切りは平成15年8月20日)

5.照会先:財団法人 井上科学振興財団

〒150-0036

東京都渋谷区南平台町15-15 南平台今井ビル601

電話 03-3477-2738 FAX 03-3477-2747

E-mail inoue01@inoue-zaidan.or.jp

なお(財)井上科学振興財団は第20回井上研究奨励賞および第6回久保亮五記念賞の受賞候補者も募集していますが、これらはそれぞれ大学長および統計物理学・物性科学分野の有識者及または久保亮五記念賞事業運営委員会委員からの推薦によるものです。



## 東レ科学技術賞

1.候補者の対象 貴学協会に関する分野で、下記に該当するもの

- (1)学術上の業績が顕著なもの
- (2)学術上重要な発見をしたもの
- (3)重要な発明をして、その効果が大きいもの
- (4)技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献したもの

2.科学技術賞 2件前後。1件につき、賞状、金メダルおよび賞金500万円

3.候補者推薦件数 1学協会から2件以内

4.推薦締切期日 平成15年10月10日(金)弊会必着  
(本学会の推薦を希望される方の送付締切りは平成15年9月10日)



## 東レ科学技術研究助成

1.候補者の対象 貴学協会に関する分野で国内の研究機関において基礎的な研究に従事し、今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる独創的、萌芽的研究を活発に行っている若手研究者(原則として推薦時45才以下)

2.研究助成金 総額1億3千万円。1件3千万円程度まで10件程度。

3.候補者推薦件数 1学協会から2件以内

4.推薦締切期日 平成15年10月10日(金)弊会必着  
(本学会の推薦を希望される方の送付締切りは平成15年9月10日)

\* 各推薦書用紙は、ホームページからもダウンロードできます。

(平成15年6月中旬から可)

U R L : <http://www.toray.co.jp/aboutus/tsf/kagaku.html>

## 公 募



### 高次脳機能発達および 学習機能研究分野の チームリーダー募集

理化学研究所・脳科学総合研究センター(<http://www.brain.riken.go.jp>)では「脳を育む」領域に取り組むために高次脳機能発達研究グループおよび学習機能研究グループを新設し、4名(それぞれ2名)のチームリーダーを募集します。高次脳機能発達研究グループでは人間の高次脳機能の発達およびその障害の機構解明を目指し、人間あるいは動物モデルを用いて、認知、思考、概念化、動機付け、情動、社会性、言語能力などの発達過程を研究します。学習機能研究グループでは人間の学習能力の発達およびその加齢あるいは脳障害によって起こる変化の機構解明を目指し、人間を直接の研究対象として、小児および青年期の学習能力発達、成人および老年期の学習能力成熟、脳障害後の再学習、臨界期後における外国語の学習過程などを研究します。

チームリーダーは研究費を受け、研究員およびテクニカルスタッフ5から10名程度からなる研究チームを組織して研究を行います。5年ごとに国際評価委員会による評価を受け、高い評価を受けた場合は研究チームを更新することができます。チームリーダーの採用を優先しますが、場合によっては上級研究員(任期の上限は10年ですが、5年でチームリーダー同様の評価を受けます)としての採用も考慮します。採用の審査に当たっては脳センターの他の研究チームと協力して研究を進める強い意欲が重視されます。応募者は1)履歴書、2)発表リスト、3)これまでの主な研究成果、研究方針、脳センターで行う研究計画を含む記述(2000語以内、英文)、4)応募するどちらかのグループ名、5)3名の照会可能者の名前と連絡先、を以下の宛先まで郵送または電子メール添付で送付ください。

理化学研究所・脳科学総合研究センター・サーチ  
小委員会19

351-0198和光市広沢2-1

fax:81-48-462-4796,

e-mail: search19@brain.riken.go.jp

応募締めきり:2003年5月31日

質問は上記の電子メールアドレスまで。

Laboratory Head Positions in Cognitive Development  
and Human Learning.

The RIKEN Brain Science Institute (BSI) is seeking applicants for 4 laboratory head positions in the Cognitive Development Research Group and in the Human Learning Research Group (2 for each). Both groups are being established at BSI to promote the research field of Nurturing the Brain. The Cognitive Development Research Group will study the development of cognitive functions including recognition, thinking, motivation, emotion, social interaction, concept formation, and language capabilities. Its aim will be to understand the mechanisms of human cognitive development and defects. Laboratories in this group will work on animal models and/or human subjects. The Human Learning Research Group will focus on human subjects, such as the development of learning capabilities in infants and young people, maturation of these capabilities in adults and the elderly, relearning after brain damage, and learning of foreign languages after the early critical period.

New laboratory heads will be required to organize a team of 5-10 researchers and technical staff. Full support will be provided for 5 years, after which contract renewal will be dependent upon a progress review made by an international review committee. There is also a possibility for candidates to be appointed as Senior Scientists, who are independent but are given a

smaller budget and space than laboratory heads. Senior Scientist appointments will be for a maximum of 10 years depending on similar review. Applications are encouraged from outside Japan, but researchers must work at BSI full time. A strong desire for interaction with other laboratories at BSI is essential. Applicants should send 1) a full CV, 2) publication list, 3) a statement including main previous accomplishments, research interests, and project proposal for work at BSI (max 2000 words), 4) name of one group to apply, and 5) names and addresses of three references to:

Search Committee19, Brain Science Institute,  
RIKEN

2-1 Hirosawa, Wako, Saitama 351-0198, Japan

fax: 81-48-462-4796,

e-mail: search19@brain.riken.go.jp

Deadline: May 31, 2003

Please direct inquiries to the e-mail address  
above.



東京医科歯科大学・  
難治疾患研究所・  
生体情報薬理分野  
文部科学教官(助手)募集

- 1.募集人員:助手1名
  - 2.研究内容:受容体・イオンチャネル・トランスポーター周辺のシグナル伝達機構、特に蛋白間相互作用が鍵をにぎる生命現象を解明し、その生理的意義およびその破綻によりもたらされる疾患の病態解明を目指します。電気生理学・分子生物学・遺伝子改変動物を用いた実験を行います。電気生理学の実験に強い方で、若く意欲ある研究者を求めます。
  - 3.任期:3年(再任は業績審査の結果、2回まで可)
- ・応募資格:満40歳未満(着任時)

5.提出書類:A4版で、各4部提出のこと

- (1) 履歴書
- (2) 研究業績目録(原著・著書など項目別、年代順に記載のこと)
- (3) 研究助成金等の採択状況(目録)
- (4) 主要論文の別刷り3編以内(コピー可)
- (5) 上記論文について、それぞれ200字程度の解説文
- (6) これまでの研究内容・方向性、将来への抱負(1000字程度)

6.募集締め切り:平成15年6月2日(月)

7.問合せ先:

生体情報薬理分野教授 古川 哲史

TEL:03 - 5280 - 8069

E-mail:t\_furukawa.bip@mri.tmd.ac.jp

8.送付先:

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-3-10  
東京医科歯科大学難治疾患研究所長 山本 興太郎

4 提出書類:

- (1) 履歴書
- (2) 論文リスト(全著者名, 論文題目, 雑誌名, 巻数, ページ(始めと終わりのページ), 発行年を記入すること, 審査のある原著論文と総説・著書などは分けて記入すること, 印刷中論文は含むが、投稿済論文、準備中論文は含めない。)
- (3) 研究概要
- (4) 主要論文5編以内の別刷 2部(コピー可)
- (5) 推薦書(1通以上), 照会先(1件以上)

\*原則として、提出書類の返却は致しません。

5 公募締切:平成15年6月30日(月) 必着

6 赴任時期:できる限り早期を希望する。

7 送付先及び問い合わせ先

(1) 送付先

〒444-8585

愛知県岡崎市明大寺町字西郷中 38番地

岡崎国立共同研究機構 総務部人事課任用係

(「生理学研究所 大脳皮質機能研究系 心理生理学  
研究部門 助手 公募書類在中」と朱書きして,簡  
易書留で送付すること。)

(2) 問い合わせ先:

〒444-8585

愛知県岡崎市明大寺町字西郷中 38番地

岡崎国立共同研究機構 総務部人事課任用係

電話:0564-55-7122 (給与等の待遇に関する問い合  
わせを含む)

〒444-8585

愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38番地

問い合わせ先:

岡崎国立共同研究機構生理学研究所

大脳皮質機能研究系

心理生理学研究部門 教授 定藤規弘

電話:0564 - 55 - 7874

e-mail: sadato@nips.ac.jp

ホームページ:http://www.nips.ac.jp/kyujin/



岡崎国立共同研究機構  
生理学研究所 助手公募

岡崎国立共同研究機構 生理学研究所 大脳皮質  
機能研究系 心理生理学研究部門

職名:助手

分野:人間の高次脳機能を動的かつ大局的に理解  
することを目指し、脳神経活動に伴う局所的な循環・エネルギー代謝の変化をとらえる脳機能イ  
メージングと、電気生理学的手法を統合的に用い  
て、人間を対象とした実験的研究を行います。

岡崎国立共同研究機構 生理学研究所

大脳皮質機能研究系 心理生理学研究部門

1 職種:助手1名

2 応募資格:博士の学位を有するか、それに相当す  
る研究業績を有する者

3 任期:7年(「岡崎国立共同研究機構生理学研究所  
研究教育職員の任期に関する規則」による、  
<http://www.nips.ac.jp/kyujin/> 参照)



## 行動神経研究部門認知学習 分野教授の公募について

京都大学霊長類研究所長  
茂原 信生

下記により、本研究所の行動神経研究部門認知学習分野の教授1名を公募いたします。貴機関の関係者ならびにお心当たりの方に周知くださるようお願いいたします。

認知学習分野は、ヒトを含めた霊長類の認知や学習を行動と脳の両面から研究する分野です。広い視野に立って霊長類の研究を進め、後進の指導・教育、研究所の運営に寄与される方を望みます。

### 記

#### 1) 応募の方法

次の書類をそろえ、2003(平成15)年7月4日(金曜日)までに(必着)、書留郵便にて  
〒484-8506 愛知県犬山市官林41番地の2  
京都大学霊長類研究所長 茂原信生宛にお送りください。なお、封筒に「認知学習分野教授人事」と朱書きしてください。

応募に必要な書類(各2部、コピーでも可)

1. 履歴書(特記すべき学会活動、科学研究費等の受領歴を含む)
2. 研究論文の目録と別刷
3. 研究論文以外の印刷公表物の目録と別刷
4. これまでにおこなってきた研究内容の要旨(3000字程度)
5. 本研究所に採用された場合におこなおうとする研究の主題とその目的・方法などの要旨(3000字程度)

#### 2) 選考方法と選考結果の発表

選考は、本研究所教官の中から選出された人事委員会の審議を経たうえで、全教官により構成される協議委員会でおこなわれます。なお、選考に関する審議内容は公表いたしません。選考結果は、当該個人に関する結果だけを応募者にお知らせいたします。

#### 3) 採用予定 2003(平成15)年11月頃

なお、本研究所は、進化系統研究部門(形態進化、集団遺伝、系統発生分野)、社会生態研究部門(生態機構、社会構造分野)、行動神経研究部門(思考言語、認知学習、行動発現分野)、分子生理研究部門(器官調節、遺伝子情報分野)の4部門と、ニホンザル野外観察施設、人類進化モデル研究センターの2附属施設で構成されている全国共同利用研究所です。霊長類研究所についてのその他の情報は、研究所のホームページ(<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/>)でも見るすることができます。

本件についての問い合わせ先:本研究所内  
松沢哲郎 (matsuzaw@pri.kyoto-u.ac.jp)  
Tel: 0568-63-0547, Fax: 0568-62-2428



## 大学院生(修士・博士)募集 および説明会

東京大学・大学院医学系研究科・脳神経医学専攻  
募集対象:医科学修士課程、博士課程

#### 入学資格

医科学修士課程:大学学部卒または平成16年卒業見込みの者

博士課程:医学部、歯学部、獣医学部卒業者またはそれ以外の学部の修士課程を修了または平成16年3月修了見込みの者。

#### 選考方法

医科学修士課程願書受付:平成15年7月1日から8日(郵送のみ、消印有効)

医科学修士課程入学試験:筆記試験 8月18日、一次発表 8月21日

口述試験 8月22日(筆記試験合格者)

博士課程願書受付:平成15年8月1日から8月8日(郵送のみ、消印有効)

博士課程入学試験:筆記試験 10月14日  
口述試験 10月15日

入試事務のお問い合わせは大学院掛(Tel:03-5841-3386)へ。

大学院説明会

日時:5月24日(土)午前10時から12時半まで(説明会後各研究室見学)

場所:東京大学医学部 3号館 5階ゼミナール室(N503)

専門分野と主任は下記の通りです。お問い合わせはE-mailで。

基礎神経医学

神経病理学 井原康夫 yihara@m.u-tokyo.ac.jp

神経生化学 尾藤晴彦 hbito@m.u-tokyo.ac.jp

神経生物学 中福雅人 募集しません

脳神経発生・分化(医科研) 御子柴克彦  
mikosiba@ims.u-tokyo.ac.jp

神経ネットワーク(医科研) 真鍋俊也  
tmanabe-ky@umin.ac.jp

認知・言語医学

認知・言語行動科学

認知・言語神経科学

音声・言語医学 高山吉弘 y-taka@m.u-tokyo.ac.jp

感覚・運動神経医学 加我君孝  
kimikaga-ky@umin.ac.jp

臨床神経精神医学

精神医学 加藤進昌 katon-ky@umin.ac.jp

神経内科学 辻 省次 tsuji@m.u-tokyo.ac.jp

脳神経外科学 桐野高明 tkirino-ky@umin.ac.jp



科学技術振興事業団(JST)  
戦略的創造研究推進事業  
平成15年度採択研究提案募集

応募締切は平成15年6月23日(当日消印有効)です。

詳しくはホームページ

<http://www.jst.go.jp/kisoken/boshuu/jigyou/rp-info.html>

をご覧ください。

問い合わせ先:科学技術振興事業団 戦略的創造事業本部 研究推進部・特別プロジェクト推進室  
募集専用 TEL :048-226-5693 FAX:048-226-1164,2144

E-mail:rp-info@jst.go.jp

社会技術分野については社会技術研究システム推進室へ

TEL:03-5404-2800 FAX:03-6402-7578

E-mail:pub-t@jst.go.jp

募集説明会を、札幌(5/16),仙台(5/15),つくば(5/16),東京(5/19・21),名古屋(5/21),大阪(5/20),広島(5/20),福岡(5/19)の8カ所にて開催いたします。

その他



社会技術研究論文募集・  
論文集発刊のご案内

1. 論文誌名 社会技術研究
2. 発行・編集者 社会技術研究会 編集委員会  
編集委員長:中島尚正 放送大学教授 社会技術研究システム研究顧問

3. 募集対象となる論文の研究領域

本論文集は、社会問題の解決や社会の円滑な運営に貢献することを目標とした研究の成果を対象とします。目標が合致していれば、理論的な研究から実践的研究(政策オプション、制度等の提案などを含む)まで幅広く採りあげます。人文・社会科学と自然科学の様々な研究領域からの投稿を歓迎します。特に、領域横断的・俯瞰的な研究の成果を期待します。

4. 投稿規定、論文審査要領、論文の発行形態  
「社会技術研究会・ホームページ」に掲載

URL :<http://www.ristex.jp/>

5. 論文募集期間 平成15年5月1日より平成15年5月31日

6. 論文集発行日 平成15年10月1日(予定)

7. 問い合わせ先 社会技術研究システム気付け「社会技術研究会事務局」

〒105-6218 東京都港区愛宕2丁目5番1号  
(愛宕グリーンヒルズMORIタワー18階)  
電話:03-5404-2800 代表(担当:宮川、加畑)  
e-mail:ttn5a3g28m@mx2.ttcn.ne.jp  
URL:http://www.ristex.jp/



### Umin の新サービステスト運用について

ご存じの方も多いと思いますが、Umin での新しいサービス「UMIN UpLOAD - UMIN ファイル交換システム」をテスト運用中です (<http://www.umin.ac.jp/upload/>)。これを用いるとメールに添付できないような大きなファイル(500MB まで)の交換が出来ます。また勤務先のデータをアップロードすれば自宅の計算機で取り込んで開くことができます。同様なサービスを提供しているプロバイダーなどもありますが、有料です。Umin の新サービスは神経科学学会の会員は無料で利用出来ます。大変便利です。是非一度おためしください。

広報担当理事 村上富士夫

ションに関わらずHTML, rtf ファイルは受付可能です。テキストファイルも可ですが、その場合メール本文に埋め込んでください。

(b) 画像ファイルはPICT、JPEG またはTIFF ファイルで、可能な限り圧縮して本文とは別のファイルでお送りください。

2. 校正は行いません(お送りいただいたファイルをそのまま利用します)ので、誤りの無いことをお確かめの上、原稿をお送り下さい。

3. ニュースへの掲載は1回のみとさせていただきます。

4. 求人情報、学会・シンポジウムの案内、助成金の案内などは特に御希望のない限り、神経科学学会のホームページにも掲載します。記事の長さに制限はありませんが、可能な限り簡潔におまとめ下さい。長すぎる原稿は一部割愛させていただきます場合があります。

5. また、他のサイトへのリンクは原則としておこなっておりませんのでご了承ください。

6. 4以外でホームページに掲載を特に希望される場合は御連絡下さい。

7. 締切は通例偶数月の月末25日ですが、都合により変動することがあります。

8. 掲載料は不要です。

9. 原稿の送付の宛先は以下の通りです。

10. ホームページのみへの掲載も上記1, 2にしたがって承ります。

jnssnews@mc.newweb.ne.jp 宛お送りください。

Cc を mkano@med.kanazawa-u.ac.jp 宛にもお送りください。



### 神経科学ニュース、 神経科学学会ウェブサイトへの 記事の掲載について

学会への提言、研究雑感、学会見聞録、書評等神経科学の発展につながるものであればどのようなものでも結構です。お送りください。

1. 原稿は電子版のみを受け付けています。原稿は電子メール添付ファイルでお送り下さい。

(a) 受付可能なファイル形式は Word(2001 以前)、EG Word(11 以前)、Kacis Writer です。それ以外にも或る程度対応可能ですが、事前にご相談ください。また作製に用いたアプリケー



### 神経科学ニュース電子版 パスワード

本ニュースの電子版のダウンロードにはUmin のパスワードが必要です。皆様方の会員固有の user ID、パスワードを入力してください。半角で、大文字小文字を区別して、入力してください。



## 会員の皆様への電子メールでの連絡について

日本神経科学学会では皆様方への情報伝達の手段として神経科学ニュースを発行しておりますが、時間的に間に合わない連絡事項に關しまして、電子メールでの連絡をしております。具体的にはこれまでもお知らせして参りましたようにUMINのアカウント(会員の皆様方は自動的に取得)宛にお送りしております。皆様方におかれましてはUMINのアカウント宛のメールを読むようメールソフトの設定をしていただきますようお願い申し上げます。設定の方法につきましてはお近くのシステム管理者に相談されるか、または[http://www.jnss.org/media/UMIN/add\\_account.htm](http://www.jnss.org/media/UMIN/add_account.htm)をご参照ください。

広報委員会

## 編集後記

イラク戦争、SARSの流行、北朝鮮問題、相変わらずの経済低迷など、暗いニュースばかりの昨今ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。このような世相にもかかわらず、ラボに新人・新生をを迎えて新たな気持ちで研究に邁進していらっしゃる先生方も多いことと思います。トップ記事にありますように、第26回神経科学学会大会の準備は着々と進んでおり、既にプログラムが決定しホームページ上で公開されています。今回、シンポジウム発表は原則として英語、ポスターも原稿は英語ということになり、神経科学学会もますます国際化が進んでいる印象を受けます。多くの著明な外国人研究者が発表者となっており、活発でハイレベルな学会になることが期待されます。神経科学学会員の先生方の積極的な参加をお願いいたします。また、神経科学ニュースに関して、皆様からの記事、アイデアなどお待ちしておりますので、こちらもどうかよろしくようお願い申し上げます。(狩野記)

発行：広報委員会

村上富士夫(委員長)

狩野方伸(ニュース編集小委員会委員長)

蔵田 潔(電子化推進小委員会委員長)

白尾智明(ホームページ担当小委員会委員長)

寺島俊雄 久保義弘 鍋倉淳一 坪川宏 小林康